

大学院社会情報研究科の思い出

岡 隆 光*

呉大学大学院社会情報研究科（後に広島文化学園大学大学院社会情報研究科に名称変更）は、平成7年4月に呉大学社会情報学部が開学してから、学年進行とともに平成11年4月に社会情報研究科修士課程、平成13年4月に社会情報研究科博士課程（後期）が開学し、情報社会の発展に貢献できる教育研究機関として歩み出しました。これら博士課程までの設置は、当時の広島文化学園理事長・呉大学学長の坂田正二先生の、“大学は博士課程を持って一人前である”という信念とそれに共感した海見俊宏副理事長（当時）を始め教職員の団結した力の成果でした。私は、これらの設置・開学に関わり多くのことを学ぶ機会を得たことに感謝し、簡単に振り返ってみたいと思います。

呉大学設置に向けた文部省折衝は、平成3年8月30日から始まり、延べ10数回行われました。私は、平成4年10月5日の第5回折衝から加わり、主に教育課程の作成と情報系教員の確保に関わりました。10月5日は日本物理学会（新潟大学で開催）で研究発表を予定していましたがそれをキャンセルしての折衝参加でした。折衝では、鮮烈な印象を受けました。この頃から、学生部長（呉女子短期大学）の仕事を済ませ、夜10時過ぎまで事務室のPC98・MS-DOS・5インチフロッピー・一太郎と睨めっこを良くしました。呉大学（仮称）設置期成同盟会（会長は呉市長、呉近郊の3市16町で結成）の支援もあり、折衝は概ね順調に進みましたが、学際的な社会情報学をどうとらえるのか、学科構成・教育課程・教員組織（教員数）・入学定員の捻出・地域のニーズ把握などに工夫がいりました。大学設置に関わった皆様の努力の結果、平成7年4月開学となりました。写真1は当時の資料です。

社会情報研究科修士課程に向けた準備は、学部の学年進行に合わせて平成9年頃から始まり、平成10年に本格化しました。当時の藤本学部長が中心となって進め、私は、大学副学長として参加しました。文部省との折衝は順調に進みましたが、平成10年6月に設置認可申請書を提出後、国際関係特論担当予定者が病に倒れたので、急きょ新しい担当者をお願いするため、外務省に行き、なんとか難を克服出来たことが印象的です。（写真2）

社会情報研究科博士（後期）課程設置の準備は、平成11年から始まり、当時の佐田研究科長が中心となっ



写真1：大学設置準備室企画課との折衝資料と認可申請書控

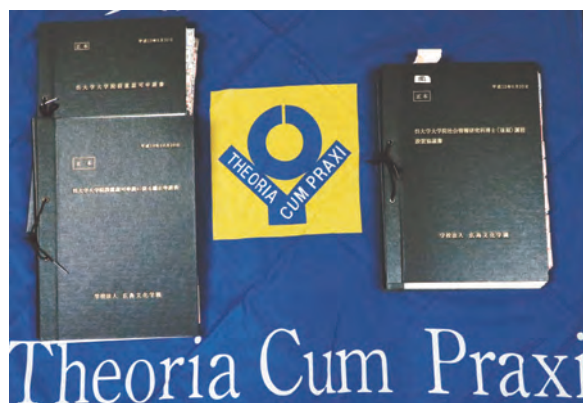


写真2：修士課程設置認可申請書と博士（後期）課程設置協議書の控

* 広島文化学園大学特別顧問

て進め、私も参加しました。全体的に順調に進行したことが印象に残っています。

これら、3回の設置認可を通して、大学設置審議会の教員審査において不適合の判定を受けた専任教員は1名もおらず、全員合格でした。これは、教員の質が高いということが証明された証であり、関わった教員として誇りに思っております。更に後で私が関わった広島文化学園大学学芸学部設置（平成22年4月開学）、大学院看護学研究科博士（後期）課程設置でも同じであり、現在に引き継がれております。

社会情報学とはなんぞや！

社会情報学部が開設されて以来、研究分野が異なる教員間で真剣に議論されてきた。コンピュータ技術、情報通信技術等に支えられた高度情報社会で活躍できる人材とは、授業科目にどう盛り込むのか…。社会情報学の教育研究

を充実するため、平成8年に日本社会情報学会が設立され、翌9年には呉大学が事務局となり学会ホームページが作成され、第2回学会大会が呉大学で開催されました。皆様の協力のもとに大会が成功し、大会実行委員長努めました私は大感激でした。感謝感謝です。(写真3、4)

公開シンポジウムは、研究した成果を地域社会に還元する地域貢献活動としての役割をもっており、学部設置年に第一回が開催され、以後毎年開催されました。研究科博士（後期）課程設置の平成13年には「環境との調和を目指した未来社会の創設」、翌14年には「水、風、土の環境から巡回社会の構築を考える」がテーマでした。環境系のテーマで開催されたのは、環境の教育研究に力を入れていたこと、平成13年4月に西日本の大学では初めてISO14001の認証を受けたことが背景にあります。

私は、従来からの理論物理学・放射線科学の研究に加え、ニューラルネットワークモデルを用いた環境情報の解析に興味を持ち、研究を進めました。成果として、「水資源と環境情報 —ニューラルネットワークによる管路内の残留塩素濃度の予測—」（社会情報研究 No.1（日本社会情報学会学会誌）平成10年）、「社会情報学」（田中一編著、第11章 数理的解析担当、培風館、平成13年）などがあります。院生とも論文を良く書きました。最近になって、Pythonを用いた深層学習に興味を持ち、脳波データの解析・パターンの分類を行う研究に着手しました。70の手習いですが、以前とはプログラム作成の考え方が大きく異なっていることに驚嘆しました。これがAI活用か!! インターネットには多くのモジュールが用意されており、それらを組み合わせる事により、早く、良い成果が得られるのではと思っています。最後に、社会情報研究科はなくなりますが、研究科で学ばれた方々が学んだことをベースに、多くのことを付け加え、進歩が著しいAI社会でたくましく活躍されることを願っています。（至誠一貫堅忍力行（母校水戸第一高等学校の校是）を座右の銘とし、良き文化を継承し、後世に伝えたい者より。）



写真3：社会情報研究科公開シンポジウムでの坂田先生挨拶



写真4：公開シンポジウム参加者の眼差し